

3. 物部川水系の社会特性

3.1 土地利用

3.1.1 土地利用の概況

物部川流域沿川自治体の土地利用は、約 70%を山地が占め、水田や畑地等の割合は約 23%、宅地等が約 7%となっている。

沿川自治体別に見ると、下流域の南国市及び香南市では、田面積が概ね 30%で、宅地面積が概ね 10%となっているのに対して、中上流域の香美市では、山林面積が 80%以上を占めており、宅地面積は 2%となっている。

表 3.1.1 自治体別地目土地面積 (単位: ha)

市町村名	総数	田	畑	宅地	山林	原野	その他
南国市	7,406.8	2,500.9	437.4	730.8	3,415.2	114.9	207.4
香南市	5,240.4	1,546.0	469.5	380.8	2,779.7	34.5	30.1
香美市	18,823.5	1,764.6	588.5	460.2	15,586.3	124.3	299.5
合計	31,470.7	5,811.5	1,495.4	1,571.8	21,781.2	273.7	537.0

「その他」は、湖沼、鉄軌道用地、その他の合計
出典：平成 17 年度版 高知県統計書

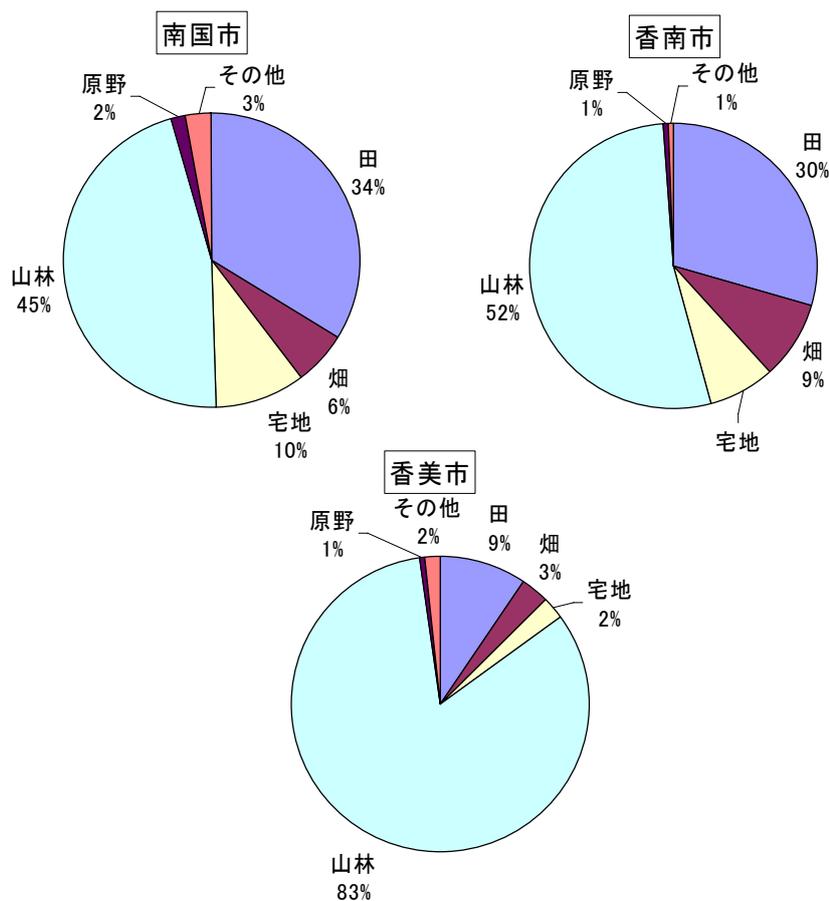


図 3.1.1 自治体別の土地利用割合

※香南市については、旧吉川村、旧野市町、旧香我美町の面積の合計に対する割合

3.1.2 地目別土地利用の推移

(1) 宅地面積

宅地面積は、高知県、物部川沿川3市とも増加傾向にあり、物部川沿川3市では44年間で約2.3倍に増加している。

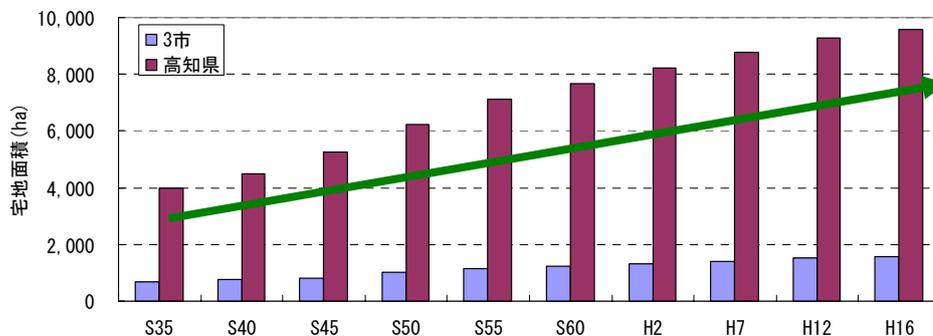


図 3.1.2 宅地面積の推移

(2) 水田面積

水田面積は、高知県、物部川沿川3市とも減少傾向にあり、物部川沿川3市では44年間で約7割に減少している。

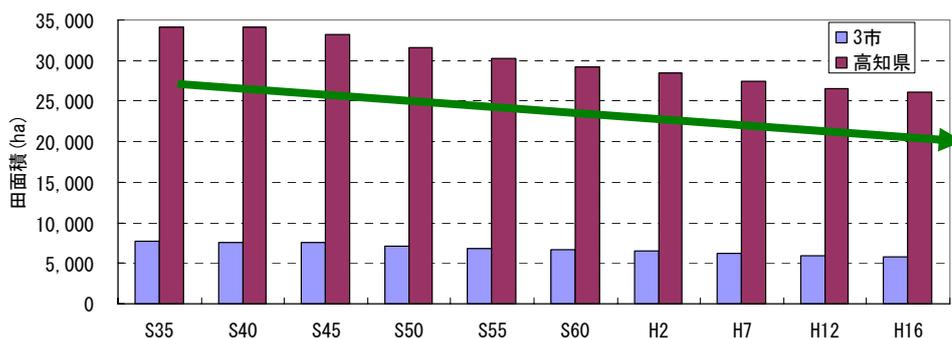


図 3.1.3 水田面積の推移

(3) 畑地面積

畑地面積は、高知県、物部川沿川3市とも減少傾向にあり、物部川沿川3市では44年間で約2割に減少している。

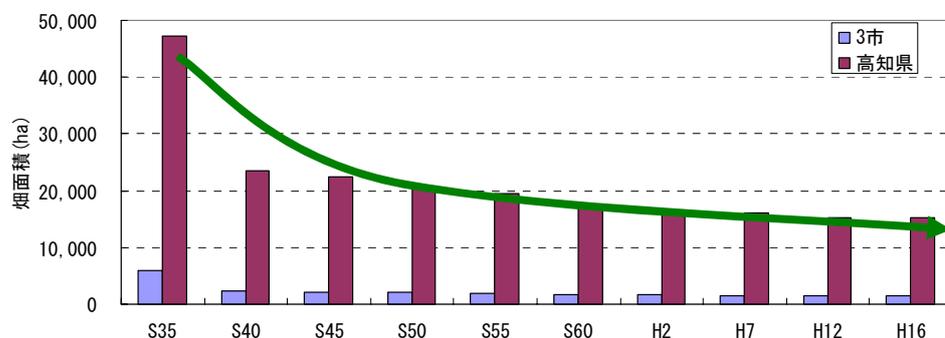


図 3.1.4 畑地面積の推移

※図 3.1.2～図 3.1.4 の3市のうち、香南市分については、旧吉川村、旧野市町、旧香我美町の合計

3.1.3 土地利用の変遷

物部川下流域では、国道沿いを中心に市街地が発達し、近年、高知龍馬空港の滑走路延長、県都高知市への利便性の向上、大学の誘致等により、ますます流域の開発が進んでいる。

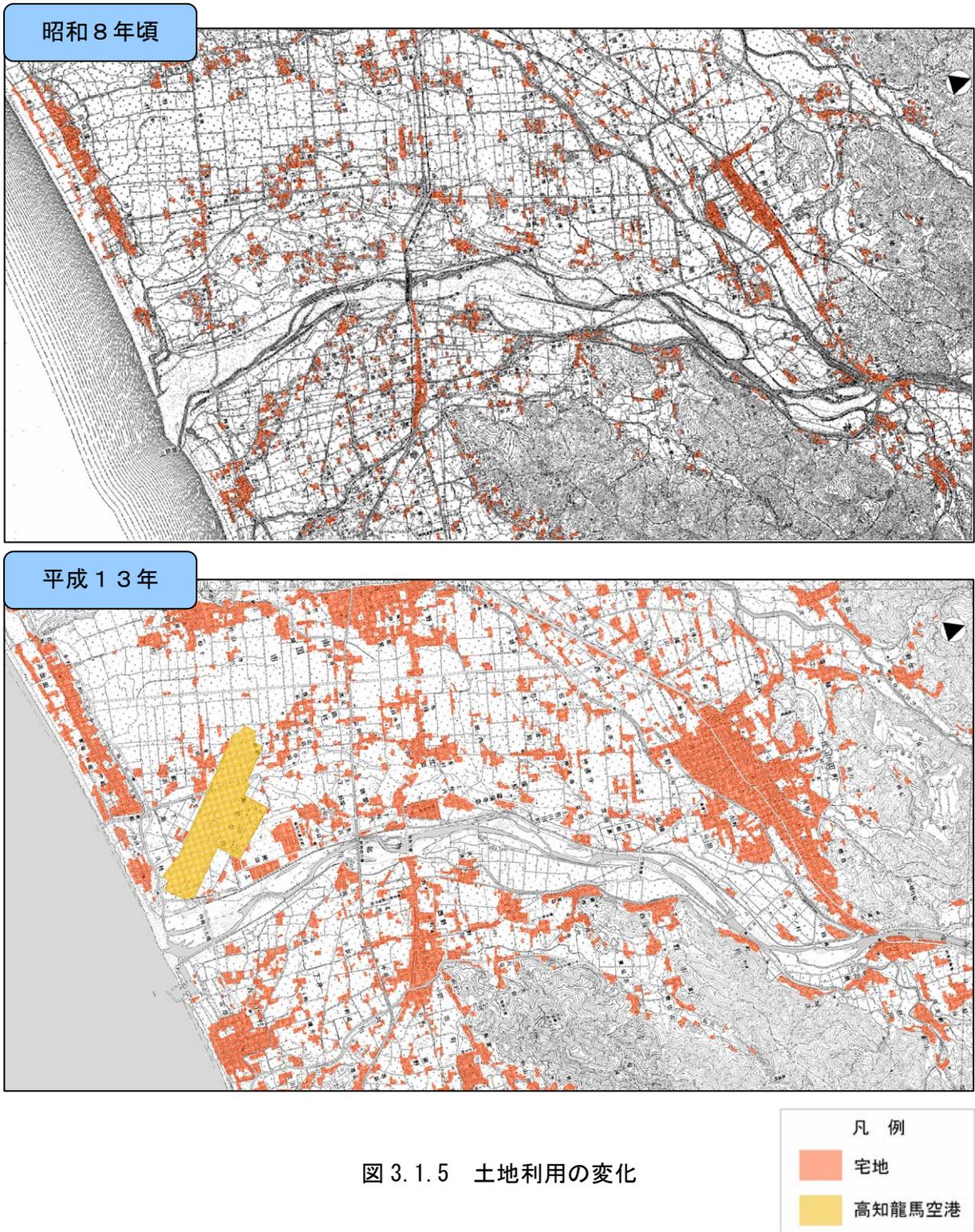


図 3.1.5 土地利用の変化

3.2 人口

物部川沿川は、南国市をはじめとする3市から構成されており、沿川自治体人口は約11万人(平成17年)となっている。人口は、下流域に位置する南国市及び香南市の野市地区、香美市の土佐山田地区に集中している。

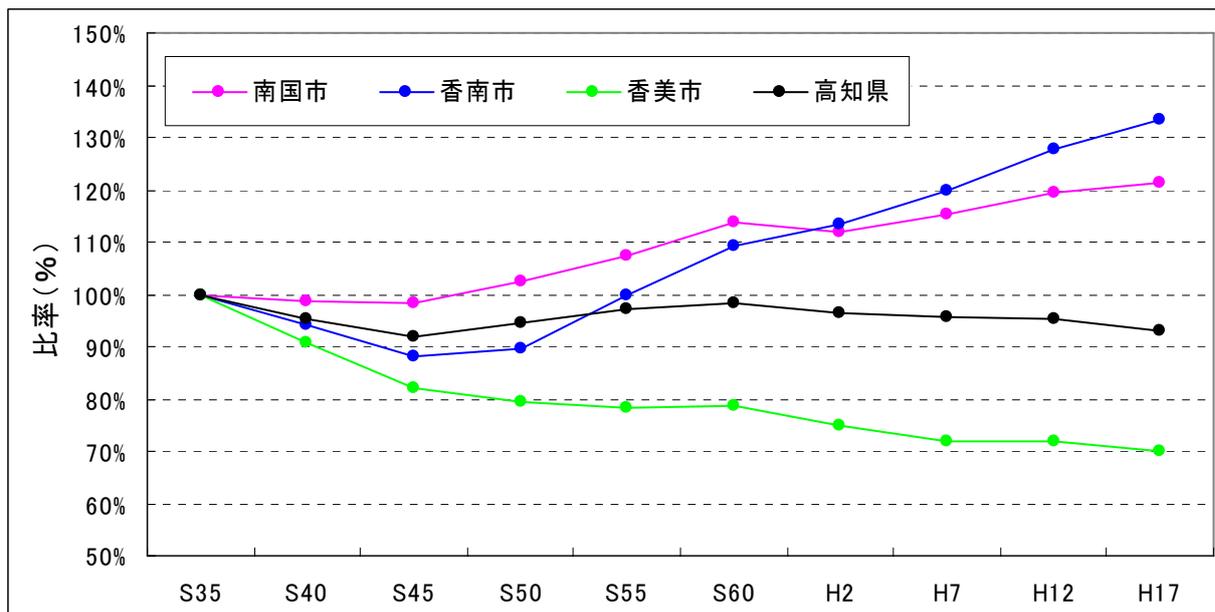
沿川自治体人口の推移は、過去45年間(昭和35年～平成17年)を見ると、高知市のベットタウンとして宅地開発が進んでいる香南市では、伸びが著しくなっている。

表 3.2.1 沿川自治体別人口の推移

(単位：人)

市町村名	昭和35年	昭和40年	昭和45年	昭和50年	昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年
南国市	41,798	41,237	41,094	42,828	44,866	47,554	46,823	48,189	49,965	50,757
香南市	19,571	18,399	17,247	17,529	19,562	21,367	22,200	23,424	24,990	26,085
香美市	43,319	39,238	35,552	34,476	33,878	34,016	32,401	31,076	31,175	30,255
高知県	854,595	812,714	786,690	808,367	831,283	839,784	825,034	816,772	813,949	796,196

出典：高知県統計書



※昭和35年の人口を100%にした自治体別における人口の増減の割合

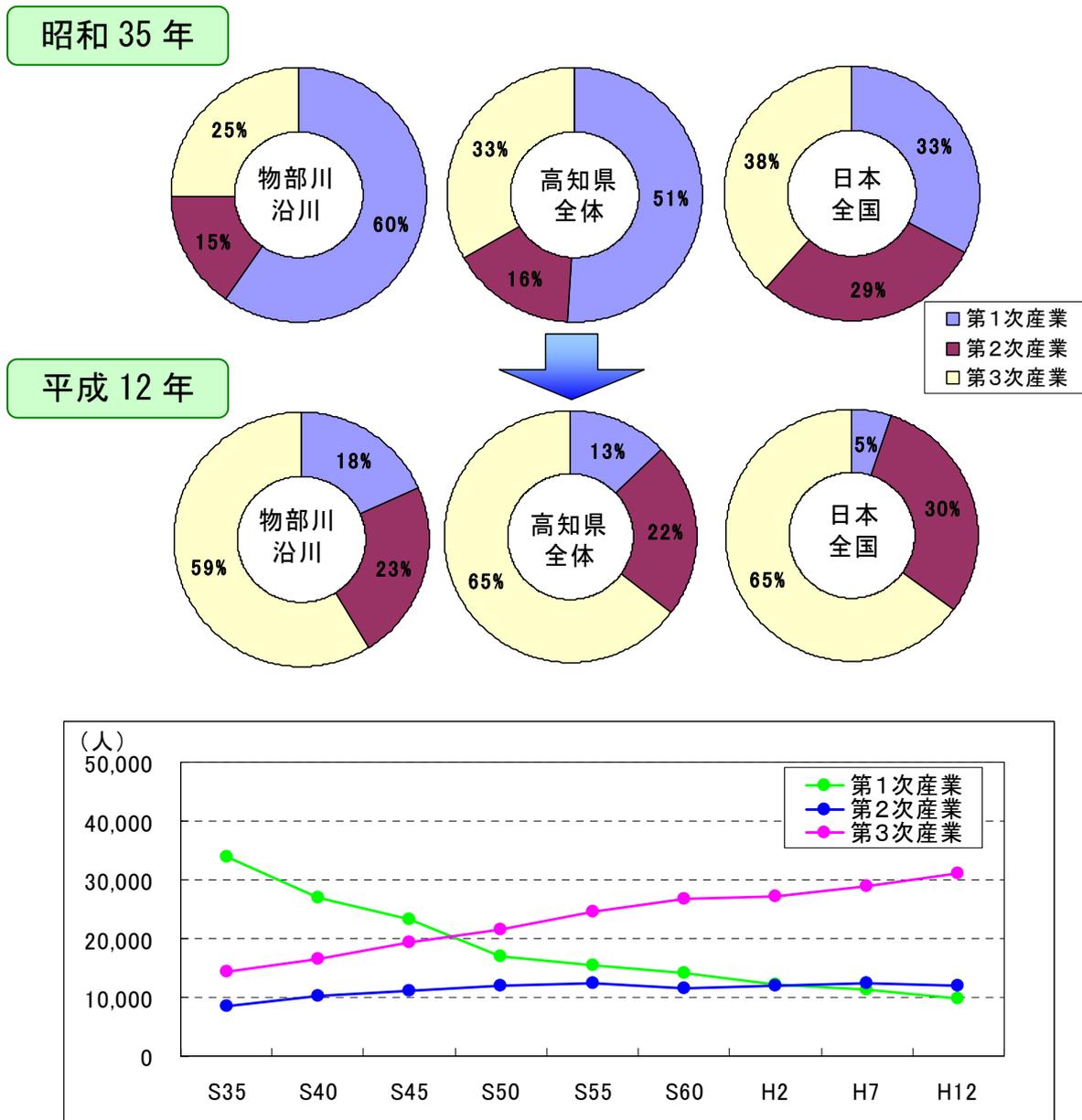
図 3.2.1 物部川沿川自治体の人口の推移

※香南市については、旧吉川村、旧野市町、旧香我美町の人口の合計

3.3 産業

物部川沿川の産業別人口は、全国ならびに高知県と同様な推移の傾向となっており、第1次産業人口が昭和35年60%から平成12年18%へ大きく減少し、第3次産業が25%から59%に増加している。

しかし、日本全体の傾向と比較してみると、物部川沿川では現在でも第1次産業人口が占める割合が多く、特に下流平野部では、野菜を中心とする施設園芸や稲作が盛んとなっている。



出典：高知県統計書

図 3.3.1 物部川沿川の産業別人口の推移

※香南市については、旧吉川村、旧野市町、香我美町の人口に対する割合

3.4 交通

流域の交通の特徴としては、高知龍馬空港が位置しており、現在東京・大阪・福岡・宮崎等を結ぶ、高知県の空の玄関としての役割を果たしている。

幹線道路に関しては、高知市と徳島県阿南市を結ぶ国道 195 号が流域を縦断している。また、高知市と徳島市を結ぶ国道 55 号が下流域の南国市と香南市を横断している。これらは、地域住民の日常生活や地域開発に大きな役割を果たしている。

鉄道に関しては、平成 14 年 7 月に開通した南国市の後免から奈半利を結ぶ土佐くろしお鉄道ごめん・なはり線が下流域を横断している。



図 3.4.1 流域の主要な交通網